

平成大合併とは何だったのか③ 交付税1本算定で失われる60億円 内陸との経済格差が拡大する

住民の意思で離脱

三川町は合併賛成派が議会をリコールし2005年1月解散、2月の出直し町議選で合併賛成派が多数を占めたことから、議会の意思に基づいて阿部誠・三川町長は5月に合併協議を鶴岡市に申し入れ合併協議を続けました。

選挙でも当選したことから住民の意思による合併離脱が明確になりました。余目町と立川町の合併は、2002年12月に任意協議会を設置し、翌年4月に法定協議会に移行し、2005年7月に合併し、庄内地方の地名を冠する庄内町が誕生しました。

しかし、三川中学校改築などが認められなかったことから2006年9月に町長が合併に責任を負えないとして辞職。11月の出直し町長選挙で自立を公約に阿部誠町長が当選し、2007年1月の町長

「見渡せる範囲」を著しく超える

山形県では庄内だけが合併をしたため、県内の市町村の姿はいびつになり、鶴岡市は東北一の面積（1311・53km²）で「見渡せる

範囲」を著しく超える自治体になりました。特例債などの合併メリットの財政効果は15年で終了し、その後は交付税の一本算定で、庄内地域から失われる交付税は年間60億円もの巨額になる計算で、経済波及効果を考えれば内陸との経済格差は拡大します。

政府はその影響の大きさから、算定替えの削減額の見直しを決め、支所経費などを増やし、削減額の7割程度を残すとはしましたが、そのこと自体、財政面からも平成大合併が失敗だったことを示しています。（つづく）

政府はその影響の大きさから、算定替えの削減額の見直しを決め、支所経費などを増やし、削減額の7割程度を残すとはしましたが、そのこと自体、財政面からも平成大合併が失敗だったことを示しています。（つづく）

私の昭和 25

鈴木重雄（88歳・八色木）

本土防衛

であった。

戦争も南西諸島の玉砕や敗退と熾烈をきわめ、敗色が濃くなった昭和20年6月国民義勇兵役法ができ、16歳から60歳までの男子、17歳から40歳までの女子が国民義勇隊に編入され、赤紙（召集令状）不要、随時何人でも招集できることとなったが、8月の終戦で不発に終わった。

藤島は東田川郡の中心地であったから、旧郡役所（現・明治ホール）に本土防衛3397部隊が設置された。退役軍人4、5人が勤務し高校、青年学校への教官配置や戦時訓練の指導をしていた。青年学校の指導員は各町村の在郷軍人であった。学科は小学校の先生が中等学校の卒業生を受け持っていた。月何回か日中後は軍事訓練、夜間は学科

実技訓練は国民服にゲートル（脚絆）を巻き、地下足袋か布沓を履き、学校に備えてある銃剣を持つて整列する。腹はいになり銃を片手に前進する歩伏訓練、銃弾射撃、刺殺、手りゅう弾の投げ方など最前線向けの訓練であった。

グラウンドのぬかるみで泥だらけになったり、ゲートルが解けたりで大変だった。女子は、標準服にモンペ姿、防火バケツリレーやグラウンドに作った藁人形に「突き」をする訓練が多かった。

教科に銃剣道もあって、剣道着のように面を覆い心臓部も保護した胴をつけ、銃剣で喉頭、心臓部を突く競技で、剣道と同じく段級位があり大会で技も競った。



4月4日(月)こりす保育園入園式。民営化移行初年度で3歳児53人、4歳児60人、5歳児62人の計175人。



4月8日(金)いなば幼稚園の入園式。初入園6人で3歳児7人、4歳児7人、5歳児5人の計19人。



4月9日(土)藤島小学校入学式。28人2クラスで56人の新入生。



4月7日(木)藤島中学校入学式。101人の新入生。

「戦争法廃止を求める統一署名」藤島で1699筆（4月11日）
ご協力に心から感謝します。まだの方は4月中旬までお願いします。

中仙道テケテク一人旅(その8) ぼったくり宿と国会の山姥(やまうば)

(新町 齋藤留治)



木曾路に入って数日後、この日は夕方になっても泊まる宿を探す事が出来なく、「なんとかなるだろうが、はて困った事になったな。」と思案にくれながら山道を歩いているとある昔話がふと頭に浮かんできた。

それは、「昔むかしある山奥の寺に年老いた和尚さんと子供さんが住んでいました・・・。」と続く子供にとってはとっても怖い昔話だった。

昔話の中の山姥は、未だピチピチした柔らかい人間の方が好きなのうだったので、残念だけれどもいくら腹が減っている山姥でも、嘸んでも嘸んでも柔らかなくならないような私のような者を泊めても知らんぷりかもしれない、と希望を抱きながら歩いて行くと、山陰

の奥にかなり大きな街並みが見えてきた。これで昔話にあるような怖い山姥が住むという一軒家に泊めてもらわなくても大丈夫と、ひと安心して歩いて着いた所は木曾福島宿。

宿屋はあるのだがどこも満員、ようやく観光協会の人から「軒だけ空いている」と紹介してくれた旅館の玄関を潜る事が出来た。

泊まる所を確保できたので贅沢は言えないが、玄関に入った第一印象は「汚い旅館だな」と思ったが、部屋に案内されて2度びつくり。「これで1万円も

ボツタクリやがって」と不満タラタラでご飯を食べ寝床に入った。

やがて寝付いた頃、こんどは「ガサガサ」という物音で目を覚ました。「さては山姥でも来たかな」と思って電気を点灯すると、来たのはゴキブリ数匹。

翌日、払った1万円札に名残を惜しんで宿を後にした。

もう一方の山姥は、アベ政治で法務大臣を務めたM女性国会議員。大欠伸や読書・携帯イジリと忙しい。

当選してお金と名誉欲を満たせば後は野となれ山となれ。この議員の顔が昔話の挿絵にでてくる山姥と重なって見えて仕方がなかった。



(写真)「日刊ゲンダイ」
2016年3月14日から

TPP国会審議入り

ウソつく、隠す、安倍政権の独善体質

—しんぶん赤旗を読んで 青山崇

4月1日は、エープリルフル(4月馬鹿)

安倍政権 強権・隠ぺい TPP開示拒む

政府文書黒塗り 国会決議無視

しんぶん赤旗 2016年4月8日付

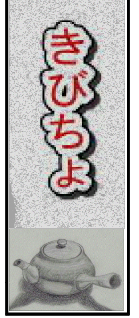
たのに、安倍首相は「交渉は結果がすべてだ」と繰り返し、公にすることを拒んでいる。

しかし、交渉に入るとき国会は「収集した情報については、国会に速やかに報告するとともに、国民への十分な情報提供を行い」と決議している。ところが、5日に政府が提出した文書は、表題と日付以外はすべて黒塗りしたもので、「国権の最高機関」である国会決議を無視し国会と主権

者国民を愚弄するものである。

また、安倍自民党は総選挙で「ウソつかない。TPP断固反対。ブレない。」のポスターを全国に貼った。しかし安倍首相は、「私は断固反対と言ったことはただの一回もない」と答弁しウソにウソを重ねる傲慢さである。

8日の衆院特別委員会では5時間半以上も中断する異常事態になった。



柿をやってみたら

先に、庄内たがわ農協藤島支所の庄内柿振興会(会長 板垣允俊氏)の総会が開かれた。

会の目的は、栽培技術と共販体制の確立による農家経済の安定と地域産業の発展である。

▲近年、柿を作る人が減少傾向にあり生産額も落ちてきているが、消費者が喜ぶ大玉づくりを目指しているのだ。

▲去年の38%から今年は53%へと大きく進展したとの報告だった。会長はじめこの日集まった何人かは70%になつてるとのこと。

▲俺のは出荷してないからどれぐらいかわからないが、コンテナに4つと6つ並ばないから結構大きくなつてい

ると思う。親戚などに送る場合、並べるに苦労するからさ、箱を作る会社は大きさを考え

てもらわないとネ。

(石川)

毒が始まります。年6回から8回の消毒なんだが、2万円弱の支払いだつたから1本当たり千円位ということか。

▲去年から自分で消毒機械を買ったから油代・償却代が掛るが、それだつて千数百円だ。ここは他人に頼んだ方が安かつたんだな。

▲退職後、親に止められながらも事情があつて、伸び放題の木20数本を買ったんだ。そしてこの会に入つて様々教えて貰っている。

▲面白いですよ。生産するということは。退職すると畑をつくりだす人が多いようだが、それと同じように、柿の木を借りるといのはどうだろうか。

▲剪定・摘蕾・摘果は講習会があるし、消毒は今まで通り持ち主にやってもらえ